

社会福祉施設の事業者の皆さまへ 職場での労働災害をなくしましょう！

江戸川労働基準監督署内の 社会福祉施設における労働災害発生状況

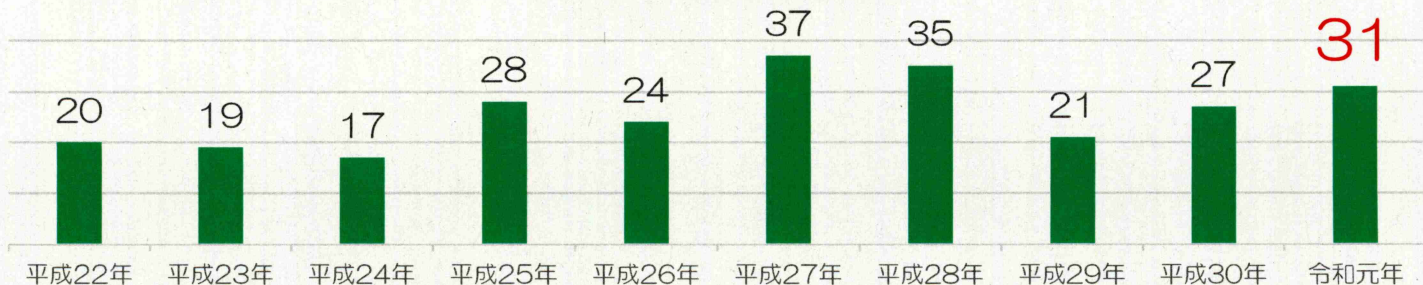
社会福祉施設における労働災害による死傷者数は、平成29年に21人でしたが、平成30年に27人、令和元年には31人と年々増加しています。

令和元年に発生した社会福祉施設の死傷災害における事故の型別は、動作の反動・無理な動作が45%、転倒が26%、交通事故が16%の順となっています。また、被災労働者の年齢は50代以上が約70%を占めています。

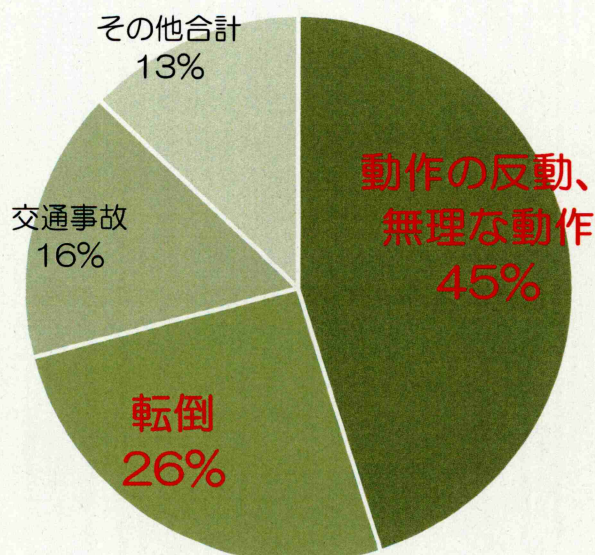
高年齢労働者にも働きやすい職場環境を作るとともに、特に高年齢労働者にはストレッチを習慣化させるなど、けがをしにくい身体づくりを実施しましょう。

裏面に、社会福祉施設で発生件数が多い2つの事故の型に対する災害防止対策を紹介していますので、皆さまの職場でも参考にして、労働災害防止に努めてください。

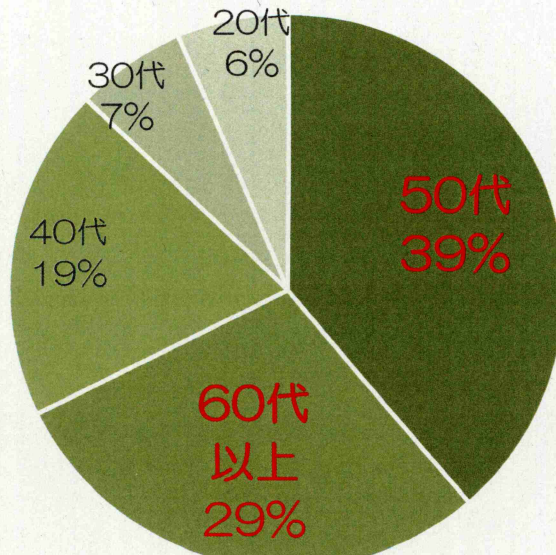
年別の死傷者数



令和元年 事故の型別割合



令和元年 年代別割合



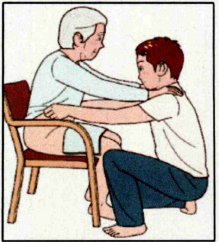
動作の反動・無理な動作防止（腰痛予防）対策

社会福祉施設における動作の反動・無理な動作災害の大部分（令和元年の当署管内においては14件中8件）は介助作業中に腰を痛めるというものです。

腰痛予防のために重要なことは、腰に負担をかけないことです。年齢、性別に関係なく、しっかり対策をとりましょう。

●対策例

①腰の負担を小さくする姿勢



できるだけ近づく。
前屈みや中腰、ひねりはNG



②機械器具などの利用



スライディングボード



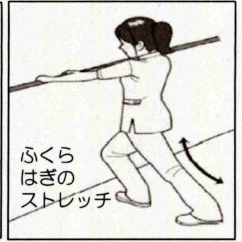
足を伸ばせるソファ

装着することで腰への負担を軽減するアシストスーツも効果的

③腰痛予防ストレッチ



太もも、尻、腹部のストレッチ



ふくらはぎのストレッチ

腰部を中心とした体の筋肉をほぐし、疲労回復を図る

※咄嗟に行動する際にも腰に負担をかけない姿勢がとれるように、体に染み込ませましょう。

転倒防止対策

転倒災害の主な原因は「滑り」と「躓き」です。床面から滑るもの、躓くものを取り除くことが最も重要な対策です。

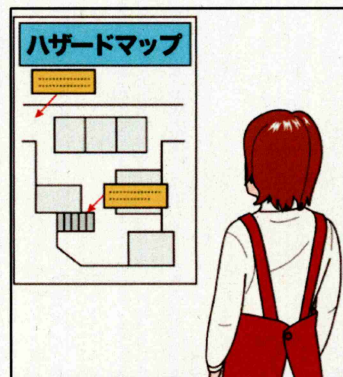
●参考となるリーフレット（東京労働局のホームページから入手可能）

『職場の転倒災害を防ぎましょう！』（東京労働局）

●対策例

①転倒の原因はすぐに取り除く。

4S活動で作業の効率もUP！



②転倒の危険箇所を見える化する。

危険箇所を明示したハザードマップの作成、周知

職場のあんぜんサイト

上記の他にも対策の方法はいろいろあります。厚生労働省の「職場のあんぜんサイト」では、実際の対策事例が見られます。その他にも安全衛生管理活動に役立つ情報が満載です。是非のぞいてみてください。職場の実情に合った労働災害防止対策を実施しましょう。

職場のあんぜんサイト 検索

謎の男 えどがわ君のアドバイス

え：エイジ（年齢）を意識した職場づくりに努めよう

ど：ドキッ、ヒヤッとしたら報告させる体制を整備しよう

が：ガイドライン（※）を参考に推進しよう

わ：若手からベテランまで労働災害ゼロでいこう

（※）腰痛予防、高齢労働者向けのガイドラインが出ています。

